

壇 登 者 読

がん患者と対話 命の大切さ学ぶ

宇都宮市 武田 たけだ 幸雄 ゆきお

(無職 77歳)

◇読者登壇欄で活躍するNさんが昨年、がんで奥さまを亡くされ、つらく悲しい思いの中で、読者諸氏に「他山の石」を送ってくれました。

◇私は一昨年、肺がんを発症。1年を経た昨年暮れ、骨髄に転移、3週間余り入院し、第1期抗がん治療を終えたところでした。医薬の進歩で生存率が向上し、この先通院治療でがんと共存する「寛解」を得て余生を送りたいと思います。この1年は家族、友人に励まされ、さらに同じ病に苦

しむがん患者が集う「まちなかメデイカルカフェ」で、命の大切さを学びました。お茶を飲みながら医師や看護師、がん経験者が、心に悩みを持つがん患者や家族の闘病への疑問に耳を傾け、対話する中

で、大きな勇気と喜びをもらいました。◇「散る桜残る桜も散る桜」。死しても生きていても「生死不二」と、今を大切に強く生きようと決意しています。